

楽しく仲よく病院ボランティア活動

奈須輝美

日本赤十字医療センターなすグループ・東京都済生会中央病院なでしこグループ 代表

私は23年間、日本赤十字社医療センターの小児病棟で、入院中の学童の学習の手助け、乳幼児の遊び相手、昼食の介助などのボランティア活動をしています。始めた年は3人しかメンバーがいまありませんでしたが、現在は約60人の「なすグループ」として、日曜日と祭日を除く毎日活動しています。学童にはベッドサイドで個人指導を、幼児には本を読んであげたり、粘土やパズルなどを出して一緒に遊び、赤ちゃんを抱っこしたり、ミルクを飲ませたりしています。

「ボランティアの方が来て下さると、安心して仕事に専念でき、本当に助かります」と看護の方はおっしゃって下さいます。子どもたちも「入院していても勉強しているから、学校に遅れないよ」と力づよい言葉を言ってくれたり、帰るときには「もう帰るの? もっとパズルをし

たい」「明日もまた来てね」、こんな声に送られて病棟を後にする時は本当に嬉しく思います。そして、私たちの姿が見えなくなるまで手を振ってくれるのです。

また、私は5年間、東京都済生会中央病院の整形外科・神経内科・外科病棟などでもボランティア活動をしています。現在20名で「なでしこグループ」というのをつくり、週5日、買い物、車椅子などでの散歩、配膳、食事介助、花の整頓、話し相手などをさせてもらっています。患者さんは「家族がなかなか来られないので、買い物に行ってもらって本当に助かった」「散歩に行ったら、外の空

気が吸えて気持ちよかった」とおっしゃって下さいます。

看護婦さん、看護助手さんは「今日もボランティアの方が来てくれますように、と祈っていたんです。今日は朝から、てんてこまい。Aさん、Bさんをすぐにリハビリに連れて行って下さい」「Cさんが寂しがっているの、話し相手になって下さい」と声をかけてくれます。このように私たちを当てにして待っていて下さり、喜んでいた

だけることが、私たちの大きな励みになっています。

「少しでも役に立てば」という想いで、誰からも強制されずに、自分の意志で始めるのがボランティア活動です。この初心をいつまでも忘れないで続けることが、受け入れ側の信頼につながっていくのです。「してあげている」のではなく「させて

もらっている」ということをいつも忘れてはいけないと思います。

ボランティア活動を長く継続していると、多くのことが経験でき、かけがえのない良き友人ができます。そうして、いつの間にか、「人のためではなく、自分自身のためのボランティア活動」ということが分かってくるのです。グループの方が「ボランティア活動に参加して、良いお友達をもらった」と言ってくれることがあります。代表の私にとって、これ以上の嬉しい言葉はありません。今後も皆さんと協力して、この2つの活動の発展に努力を重ねていくつもりです。

